（ＮＰＯ法人）岡山県樹木医会会報

『樹木医ジャーナル』

第４号（令和５年９月）

ｱﾃﾂﾏﾝｻｸ

1. 令和４年度事業報告
2. 令和５年度事業予定
3. 研修会報告
4. 令和４年度の活動実績
5. トピックス
6. 会員名簿および賛助会員名簿

１.令和４年度事業実績

(1) 令和４年　６月　６日　～１２月２０日　毛無山ブナ林の自然環境（病害虫等）調査業務

(2) 令和４年１０月１６日　岡山県立大学樹木調査業務

(3) 令和４年１０月３０日　岡山県立森林公園観察会研修

(4) 令和４年１１月　７日　倉敷市酒津公園サクラ植樹(講師)

(5) 令和４年１１月２８日　岡山県立興陽高校造園デザイン科２年生授業(講師)

(6) 令和５年　１月２０日　総社市白馬ほねつぎ院サクラ剪定及び治療

(7) 令和５年　２月１２日　保存樹木の増殖（接ぎ木）研修会(岡山市半田山植物園)

(8) 令和５年　３月　４日　春日神社樹木調査業務

(9) 令和５年　２月２３日　～３月１９日　令和４年度岡山の巨樹老樹名木樹木診断調査業務

２．令和５年度事業予定

(1) 令和５年　４月　２日　良寛椿再生治療（倉敷市玉島栢島　円通寺）

(2) 令和５年　５月１４日　NPO 法人岡山県樹木医会通常総会

(3) 令和５年　５月１４日　５月２６日　玉野市立山田小学校クスノキ治療

(4) 令和５年　５月～　第 72 回全国植樹祭苗木育成業務

⑸ 令和５年　６月１８日　岡山市立福浜小学校クスノキ調査業務

(6) 令和５年　７月２３日　玉野市渋川フジ調査業務

(7) 令和５年　７月～８月　岡山市保存樹指定前調査業務

(8) 令和５年　９月２５日　岡山県立興陽高校造園デザイン科出前授業(講師)

３．研修会報告

（1）岡山県立森林公園観察会研修

令和 4 年 10 月 30 日、岡山県立森林公園の自然観察会に当会の国忠征美、梶原利廣が講師として、会員 4 名も一般参加者（約 70 名）とともに参加して研修を行いました。

当日参加者は 4 班に分かれてブナの平コース、展望台コースなどのコースを歩き、講師の説明を聞きながら約 2 時間程度公園内を散策しました。

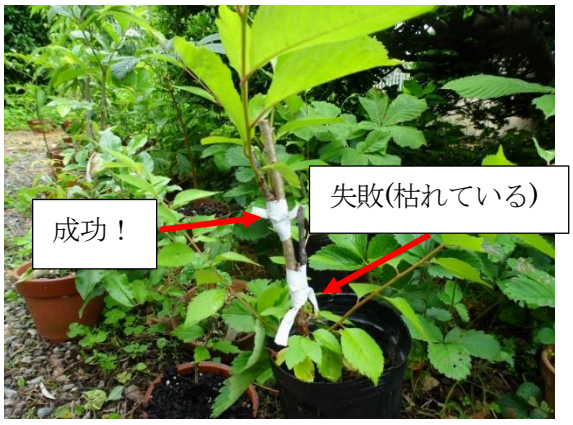
国忠講師からは、森林公園の森は昔のたたら製鉄により伐採されたため原生林では無いという話や、ナツツバキの幹の傷を見て、シカが角の間のダニを取るため角を研いだ跡であるといった話の他、杉には太平洋型と日本海型があるといった話など、バラエティーに富む解説がありました。

梶原講師からは、ウリハダカエデやオオイタヤメイゲツなどのカエデ類についての特徴の説明や、ホワイトボードを使用したナナカマドの葉の特徴解説などがありました。　　(文責：猪)

（2）接ぎ木研修その後

令和 5 年 2 月 12 日に半田山植物園において、国忠樹木医を講師に迎え「接ぎ木研修」が開催されました。参加者は樹木医、樹木医を目指す者を含め 12 名。

穂木(ジンダイアケボノ)を台木(エゾヒガン)に接ぐ練習を行いながら、「使用する刃物はよく研磨したものを使用すること」「継いだ後は乾燥しないように接ぎ木テープでしっかり保護すること」「養生中は鳥が止っただけで駄目になるので取り扱いは慎重に」などコツと注意事項を学びました。本番は芽が動き出す 2 月下旬。それぞれ台木と穂木を持ち帰って冷蔵保存したのち「接ぎ木」にチャレンジしました。結果は、筆者の場合はかろうじて 1 つだけ成功しました(ほっ・・)。



参加者の皆さんの結果はいかがでしたか？。編集委員に尋ねると、意外と成功しているようです。

2017 年に和歌山県紀美野町町で絶滅したと思われていた「ブドウハゼ」が発見され、天然記念物として再登録されました。現在、接ぎ木により量産されており、貴重な遺伝子は将来に向けて継承されるようです。昔からある「接ぎ木」「さし木」「とり木」などの技術を学んでいくことは樹木医として当然ですし、技術継承のためにも今後研鑽を積んでいきたいと思っています。　　(文責：梶原)

４．令和４年度の活動実績

巨樹老樹名木調査

（一社）岡山県緑化推進協会の依頼で県内の巨樹老樹名木の健全度調査を実施しました。令和２年７月に発刊された「新岡山の巨樹老樹名木」に掲載されている樹木９４種、１９３本の中から毎年継続的に健全度調査を実施するもので、今回は次の３本について実施しました。

・奥谷の流れ柿（ *Diospyros kaki* ）

調査日　2023 年 2 月 23 日
樹種名　カキノキ
所在地　加賀郡吉備中央町上加茂字奥谷

概況
・根元から６ｍ付近まで空洞化している。過去に処置が行われているが、現時点で空洞・腐朽部の処置が必要。
・周辺の竹、笹類及び隣接するヒノキ林の被圧により、生育への影響が生じている。
・木柵が腐朽しているので、再設置が必要である。

・阿弥陀堂のイチョウ（ *Ginkgo biloba* ）

調査日　2023 年 3 月 12 日
樹種名　イチョウ
所在地　勝田郡奈義町小坂
概況
・幹に腐朽部が見られる。枯れ枝等が多く、枯れ枝及び不要枝の切除が必要。
・枯れ枝の落下による事故防止のため、樹木周辺への立ち入り禁止措置が必要。また、枯枝落下注意の看板設置が必要。

・休石のヤマボウシ（ *Cornus kousa subsp. kousa* ）

調査日　2023 年 3 月 19 日
樹種名　ヤマボウシ
所在地　新見市千屋花見

概況
・根元から１ｍ付近まで空洞化（腐朽）している。空洞・腐朽部の処置が必要。
・枯れ枝や折損枝が多いので、切除が必要。
・周辺の樹木の被圧により、生育への影響が生じている。

（文責：竹入）

５．トピックス

(1) 良寛椿再生治療

令和５年４月２日、倉敷市玉島円通寺にて良寛椿の樹勢回復治療を実施しました。以下にその概要を記載します。

「良寛椿再生治療」

・日　時　　令和５年４月２日（日）９時～15 時
・場　所　　倉敷市玉島栢島　円通寺　覚樹庵跡
・参加者　　支部会員 10 名　造園関係者５名　一般見学者 20 名
・経　緯　　円通寺は良寛が修行した地であり、境内の良寛椿　（*Camellia japonica ｓｐ.*）は樹齢約 200 年で、良寛御手植えと伝えられる古木である。2005 年頃より樹勢が弱り花付きの悪い状態が続いており、地元良寛椿を守る会の依頼を受け樹勢回復治療を行った。

・考　察

1. 樹勢低下原因
   ①北側に近接する納骨堂を建設するために盛土されたことによる発根障害。
   数年前に約 20m2 程度取り除かれた。
   ②現地土壌は、花崗岩質の粘土を多く含み、土壌硬度は 22～24 と悪く、雨水、空気などの透通性が不良である。
   ③葉緑素計（参照 1）により、測定した結果、健全葉で 80～83 となるが、この椿では 23～25 の不良となった。
   （参照１：ｺﾆｶﾐﾉﾙﾀｾﾝｼﾝｸﾞ㈱製、SPAD-502,ｼﾘｱﾙNo.81913015）
   ④養水分の流れが悪くなり、枯枝が目立つ。
2. 結果
   ①根茎の成長障害が起こっている。
   ②養水分の吸収力の低下。
3. 対策
   土壌改良を実施し、施肥・灌水といった維持管理作業と共に経過観察をする。

・治療概要

1. 土壌改良　　該当木の周囲約 20 ㎡に約 20 か所以上の縦穴（径 15ｃｍ、深さ 50ｃｍ）を掘り、粉炭を充填後、化成肥料（N:P:K＝12：8：6、15 kg）を散布。
2. 活力剤注入　微生物系活力剤 100 倍希釈液（N:P＝1：0.1）を特殊ノズルを用いて深さ約 0.5m の土中にて 200 リットル灌注した。
3. マルチング　処置面全体をココピートで敷均した。（敷厚１㎝程度）

６．会員名簿及び賛助会員名簿

登録番号	登録期	氏　　名	役職・委員
340	5 期	國忠　征美	理事長
2465	25 期	大賀　哲哉	副理事長
1141	14 期	魚井　聖一	理事
1314	15 期	時光　邦憲	理事
817	11 期	片岡　栄一	理事
2666	26 期	山崎　真理	監事
743	10 期	古城　富士夫	社員
1621	18 期	石部　友弘	社員
1856	20 期	猪　雅人*	社員
2004	21 期	小林　智	社員
2169	22 期	中野　聡	社員
2503	25 期	重廣　一成	社員
2356	24 期	梶原　利廣*	社員
2792	28 期	大熊　紗織	社員
3037	31 期	竹入　隆弘*	社員

***編集委員**

顧問	氏　　名
	千葉　喬三

賛助会員

＜個人＞	＜法人＞
武田　浩晃	（株）武田芳翠園
森田　宜嗣	（株）山都屋
寺内　　忠	（株）山本造園
オルソン　良子	（株）小山庭苑
片岡　良一	

事務局
〒702-8001　岡山市中区沖本 488
事務局長　片岡栄一

HPはこちら